

がんは遺伝子が傷ついて不  
死細胞ができる「遺伝子の病  
気」です。しかし「遺伝病」  
という見方は誤解です。遺伝  
はがんの原因の5%程度にす  
ぎません。

まったく同じ遺伝子を持つ  
一卵性双生児でも同じがんに  
かかる確率は1割程度にすぎ  
ません。逆に、結婚後長い時  
間をとともに暮らす夫婦は同じ

## がん社会 を診る

中川 恵一

がんにかかりやすい傾向があ  
ります。特に、肺がんや胃が  
んでは、夫婦が同じがんにな  
る確率が高いことが分かっ  
ています。

がんの原因の半分以上が生  
活習慣によるものです。この  
ため、社会のあり方や生活習  
慣によって、がんの種類も変  
わってきます。例えば、最近、  
韓国に抜かれましたが、日本

## 遺伝よりも生活習慣

は長い間、世界一の「胃がん  
大国」でした。今、がん死亡  
数では肺がんが1位ですが、  
患者数では胃がんが依然トッ  
プです。

一方、白人では、胃がんは  
日本人の10分の1程度で、米  
国では白血病を下回ります。  
しかし、米国でも1930、  
40年代は胃がんがトップで、  
今の日本並みに発生率が高い  
時代がありました。日米の「胃  
がん格差」は民族差によるも  
のではないのです。

ハワイやブラジルなど、海  
外に移住した日系人は日本人  
の遺伝子を持っていますが、  
かかりやすいがんの種類は日  
本に住む私たちと大きく異な

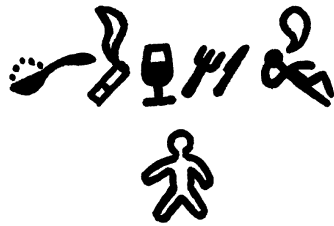
ります。例えば、乳がんは日  
本でも増えているものの、依  
然として欧米と比較すれば罹  
患（りかん）率、死亡率とも  
に半分に満たない低さです。

これに対し、ハワイやブラ  
ジルの日系人の罹患率は国内  
の2・5倍に達します。動物  
性脂肪などが多い西洋的な食  
生活が、日系人に乳がんを増  
やしたと考えられています。

逆に、胃がんの発生率は、  
日本からハワイへ移住した人  
では大幅に低くなっていま  
す。塩分の少ない食事に変わ  
ったことが原因でしょう。一  
方、ブラジルの日系人では、  
国内とほとんど変わっていま  
せん。ハワイとの差は、塩分  
の多い日本の食生活を海外  
の移住先でも続けたかどうか  
によるものだと思います。

がんの発生原因の半分以上  
が、喫煙、飲酒、食事、塩分  
過多、運動不足などによるも  
のです。そして、男性のがん  
の約6割が、女性のがんでも  
3割程度が予防できることが  
分かっています。

（東京大学病院准教授）



イラスト・中村 久美